

平成16年5月6日

<4953 学校教育専攻 佐々木 朗>

教育実践研究レジュメ

1. 購読した論文 「抗いがたき“磁場”としての新自由主義教育改革教育」

児美川孝一郎(こみかわ) 教育学・教育哲学 法政大学

キーワード

新自由主義

政府の過度な民間介入を批判して、個人の自由と責任に基づく競争と市場原理を重視する考え。福祉国家の実現や「大きな政府」を支持する古典的な自由主義に対して、夜警国家的な「小さな政府」を支持する立場において、用いられた。1980年代には、こうした考えに基づき、経済の安定化を図り、イギリスのサッチャー、アメリカのレーガン、日本の中曽根政権のもとで、民営化や減税が進められた。また、これらは、経済の国際化に戦略的に対応することによって、貧困層よりも、中産階級の支持を求めようとしていると言われる。(出典 現代政治用語辞典)

2. 論文の概要

1990年以降、新自由主義の原理に基づく教育改革が、抵抗勢力に打ち勝ち次々とすすめられてきた。その結果として、学校現場に矛盾や混乱を引き起こすことになった。それらを抑えるための教育政策が強化されている。

新自由主義がこれほど力を振るうことができた理由は、強引な押し付けであるという以外にも、「自由」、「選択」、「個性」といったソフトなイメージの仮面で覆われていたため、正体がわかりにくかったということも大きなものであろう。

1. 新自由主義教育改革による学校再編

学校がどう様変わりしたか、それはどのような論理によるものが整理していく。

学校教育のスリム化

- ・再編内容 学校と家庭、地域社会が連携し、学校による教育の抱え込みを排していくこと。
- ・批判内容 学校の機能の縮小はリストラを伴う。(私学助成の低減、学校の統廃合) 学校はスリムになるものの、家庭や地域社会の教育力を引き上げる政治的な手立てがない。「民間活力」の導入、「受益者負担」が増大の原理により、サービスとしての教育を市場に任せてしまっている。

学校の公共性の変容

- ・再編内容 選択学習の導入、選択教科のさらなる拡大、共通履修科目の縮小、「習熟度別学習」、「個に応じた指導」の強調。「学校選択の自由」、「学校制度の複線化」
- ・批判内容 初等教育から子ども達を能力別に選別し、さらに複線的な進路をとらせることによって、早期選抜体制を築き、財政効率を上げていくことになる。「確かな学力」、「教育の機会均等」が実質「能力別学習」になってしまっている。

学校運営のマネジメント化

- ・再編内容 管理職への権限集中とトップ・ダウンによる意思決定、職員会議の補助機関化、学校評議員制度の導入、民間人の校長への登用など
- ・批判内容 学校運営上の権限と意思決定が管理職に集中され、与えられた職務をこなすだけの教職員になる。民主主義的な合意と教職員の自発的な創意工夫に基づく学校作りの放棄になる。

サービスとしての教育

- ・再編内容 公立小・中学校の学校選択制、説明責任の強調、外部評価システムの導入、東京都立高等学校の数値化された学校経営目標の設定、個に応じた学習指導の徹底
- ・批判内容 日常の教育や教育実践が限りなく個別化・分断化されてしまい、その本来の共同的・協同的な景気を掘り崩してしまう。評価が進学実績といった指標に一元化されてしまう。

2. 新自由主義の社会的基盤

公教育が市場化をすすめつつ、マネジメントの論理の徹底、商品化がなぜこのように急速に進んだのだろうか。

財界の教育改革要求

学校制度は、一握り能力のあるエリートと、多数の安価で使うことができる従順な労働者に分けていくことにより、企業の利潤追求につながる。したがって、教育は、大胆に「多様化・複線化」され「能力主義」を徹底することによる早期選別していくことが好ましい。

新自由主義教育改革を受容する意識と構造

1980年以降、様々な教育問題が噴出し、それに対する不満が新自由主義教育改革への支持や期待にすり替わっていった。また、日本社会全体が、個人主義化し、競争の論理、選択や自由の確保を最優先する新自由主義の考えを下支えした。

3. 新自由主義教育改革への対抗軸

教育研究における批判的ディスコース

新自由主義の個人と自由を尊重し、その結果は自らが責任を負うという考えが現在の日本社会では「公理」にまでなっており、それを崩していくのは容易なことではない。

新自由主義の人間観

新自由主義による人間像は元来理想としてきたものとかげ離れているが、企業社会や市民社会に慣れ親しんだ生活では半ば強制的に順応させられている状況にある。新自由主義の人間観や社会的ルールの問題点は、「選択」、「自己責任」のルールを例外なくあてはめようとするもので、「人間存在の多様性」と矛盾し、弱者の切捨てにつながってしまう。

抵抗の拠点へ

雑誌「教育」の「魂の新自由主義化？」において、教育実践の課題として、「他者」との交わりの回復や「異質同質」の世界の創造を対置するよう主張している。一方、大人社会のありようや新自由主義と奥深い日本の市民社会の中では、非常に困難な課題である。

新行動主義への批判の対抗軸は、人間存在の「共同性」という人間観、社会観であり、思想や集団的な文化である。このことを勇気を持って問うてみる必要がある。

<http://pol.cside4.jp/theory/16.html> pol words net 現代政治用語辞典